

新聞掲載

南海日日新聞 R4.12.4



胸に手を当てて、何を考えているのか自分に問い掛ける生徒ら―11月25日、奄美市住用町(提供写真)



命のバトンタッチ

東城中で オンライン授業

奄美市住用町の東城中学校(永井孝典校長、児童生徒28人)で11月25日、オンラインによる「命の授業」がありました。講師はNPO法人がんサポートかごしまの野田真記子さん。中学生9人と保護者らが参加し、がん患者の経験談などを通してがんに対する理解を深めました。

自分や友人、周りの人の命の大切さを考えることを目的に実施。生徒らは事前学習で、がんの種類や症状、治療方法やどのような支援が必要なのかについて学びました。

授業では乳がんを経験し

がんに理解深める

た野田さんが、病名を知らされたときの気持ちや治療の様子、周りの人たちの支えなどについて語りました。冒がんで亡くなった同法人の元メンバーのメッセージも紹介。「あなたはあなたのままでいい。そのまま金メダル」「未来に生きる皆さんに命のバトンタッチをします」など心に響く言葉に、生徒らは目に涙を浮かべて真剣な表情で耳を傾けていました。

2年生の政柚月さんは「今の自分を大切にしたいと改めて思った」、3年生の林海心さんは「今までの自分や言葉の使い方などを心に問い掛けてみて、もう少しこうすればいいんじゃないかと考え直すことができた」とそれぞれ話しました。